

<b>団体名</b>	三原市	<b>所 属</b>	保健福祉課	<b>他団体等との連携</b>	医師会，薬剤師会，がん患者団体等
<b>連絡先</b>	健康増進係 (0848)67-6053				

<b>取組事例名</b>	がんとつきあう地域生活を支えるまちづくり	<b>取組期間</b>	平成24年度～
--------------	----------------------	-------------	---------

### 取組の概要 ～ がん撲滅のまち三原

本市の健康づくりの重点事業として、「がん撲滅のまち三原」をスローガンに掲げ、各種施策に取り組んでいるが、がん検診の受診率は低迷している。

こうした状況の中で、本市のがん対策の認知度向上と、市民自らのがん対策への行動促進、支援体制の構築を図るため、医師会、薬剤師会、がん患者団体、教育委員会等が連携し、「がん」を身近なものとして捉え、「じぶんごと」とする取組を実施した。

### 取組の背景 ～ がん対策への認知度が低い

本市の死因の第1位である「がん」対策として、女性のがん検診自己負担の無料化に取り組んでいるが、受診率は県内では下位である。

市内には、国や県が指定するがん対策の拠点病院は存在しないが、市域全体をひとつの医療機関として捉え、がんの予防から緩和ケアまでを対応できるよう、中核的な病院に対してPET-CT導入等の費用補助を行い、地域医療を推進してきた。

高齢化・核家族化の進展が進む中、限られた医療・保健・福祉の社会資源の一体的・継続的な取組と、がんとつきあう地域生活を支えるまちづくりが求められており、また、広島県が取り組む「がん対策サポートドクター（がんよろず相談医）」「がん検診サポート薬剤師」との有機的な連携や、医療機関の機能、がん医療に従事する専門職種の機能や役割について、広く市民に紹介し地域に浸透させることが必要であった。

### 取組のねらい ～ 情報発信で行動促進

保健・医療・福祉関係者が協働して、本市における「がん予防から緩和ケアまでの地域資源」の情報発信等を行うことで、市民が、受け手としてだけではなく、保健・医療・福祉を支える側の一員としての、市民の「がん対策」への行動促進を目指す。

### 取組の具体的内容 ～ 関係団体とのフォーラム開催

#### 市民公開講座「がんフォーラム」

- 1 認知度の高い講師による体験からのメッセージ**  
無関心層の興味をひくと共に関心層も含めてがんを身近なものとして捉え、自分ごととするよう仕掛ける。
- 2 予防から緩和ケアまでの支援者からのメッセージ**  
本市のがん対策を担う専門職（医師・薬剤師・放射線技師・緩和ケア等認定看護師・社会福祉士・保健師等）が、リレートーク形式で本市の強みや最新情報を紹介する。
- 3 子どもチャレンジ**  
中学生に医療の専門性に触れる体験機会を提供し、次世代を担う子どもたちの職業観を育むとともに、保護者への便りを作成することで、健康への関心を家族ぐるみで高める。
- 4 体験コーナーでの「見る・聞く・触れる」**  
日頃、手にとる機会の少ない支援グッズの体験  
①ストマ用装具 ②医療用かつら
- 5 相談コーナーを利用したPR**  
(1) 社会福祉士やがん医療の認定看護師による専門相談コーナーの設置  
(2) がん患者団体・アニマルセラピー協会による情報発信コーナーの設置



## 取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 連携体制づくり

市民のがん治療においては、病状に応じて定期的な通院や在宅緩和ケア、介護保険などを活用した地域生活への支援を行う必要があるが、三原市内の医療・福祉機関のネットワークは十分とは言えず、「がん対策」に特化した協働の機会はなく、各々の機関が課題を捉え取り組んでいたため、どの機関がコアになって推進していくかを検討する必要があった。

## 創意工夫した点 ～ 地域に密着した関係団体との手作りフォーラム

三原市と三原市医師会がコアになり、市内11医療機関の協力を得て、がんフォーラム実行委員会を開催し、がんフォーラムの機会を通じて、医療・保健・福祉の顔の見える関係を構築しながら企画・啓発した。

### 1 子どもを取り込む

- (1) 中学生への医療の専門性の体験機会とし、体験を通じて職業観を育み健康への関心を高める。
- (2) 保護者への便りを作成し、子から親、孫から祖父母へ、健康を願うメッセージを届ける。

### 2 三原市の強みをPR

三原市の強みである、がん診療に必要な機能を有した医療機関が複数存在し、様々な専門職が機能している現状を、リレートークや相談コーナーを通じて情報発信する。

### 3 体感・実感・お徳感

人工肛門や人工膀胱の装具であるストマ用装具や医療用かつらなど、がん向き合う暮らしの応援グッズを実際に見て、触れて、専門家から説明を聞く機会を提供した。

本市の乳がん患者団体「オリーブ」やアニマルセラピー協会の活動について、会員から直接啓発を行い、療養生活を支えあう身近な存在として、当事者と語り合う機会を設けた。

豪華景品が当たる抽選会「年末健康ジャンボ」を行い、地元の特産品等を賞品としたお楽しみ企画を実施した。

## 取組の成果（効果） ～ 地域の医療資源のPR実現

三原市のがん対策の現状や、がんにつきあう地域生活を支える体制について市民に広く周知することにより、地域全体で「がん対策」について考える機会となった。

第1回開催時は、市と医師会の主催であったが、2回目から薬剤師会も主催側となるなど、関係機関に拡がりが出て、より多くの関係者が主体的にかかわった取組が出来た。

また、趣旨に賛同し、がんフォーラムのポスター掲示等に協力して下さる応援店が商店や銀行、郵便局、企業等15店舗に拡がった。

- 【がんフォーラム参加者】 200人（第1回）  
330人（第2回）
- 【中学生の1日職場体験】 4名（第1回のみ実施）
- 【保護者への健康便り】 737通（全中学校 第2回）
- 【アンケートの声】

- ・ いろいろな相談窓口があるとわかった。
- ・ 様々な職種の方からのアプローチを知ることが出来た。
- ・ 緩和ケアの考え方が変わった。自分らしく生きるためのケアだということがよくわかった。
- ・ 楽しいプレゼントまでありうれしかった。



市民公開講座  
第2回 「がんフォーラム」  
～がんを恐れず ひとごととせず～  
基調講演 (13:05～13:25)  
『わたしの体験から』  
講師：馬場のぶえ（広島テレビ アナウンサー）  
リレートーク (13:30～15:00)  
■ 「がん検診へいこうよ」 三葉三原病院 病院長 寺面 和史  
■ 「薬との付き合い方」 広島県がん検診サポート薬剤師 森 広 亜 紀  
■ 「緩和ケアと療養支援情報」 三原市医師会病院 緩和ケア認定看護師 助 信 わかな  
■ 「がんまつわるお金の話」 三原赤十字病院 社会福祉士 柳 迫 三 寛  
体験コーナー＆個別相談 (12:30～15:30)  
■ 医療用かつら、ストマ用装具コーナー  
■ がん相談、医療福祉相談、がん情報コーナー  
■ 「オリーブ」三原市乳がん患者団体コーナー  
豪華景品が当たる!!  
年末健康ジャンボ

## 今後の展開 ～ ねらいを実現するため、取組を推進

- 1 がんフォーラムの市民認知を高め、市民への更なる情報発信を行う。
- 2 市が育成する健康づくり推進員の活動に盛り込む。
- 3 がん対策を切り口にした医療・保健・福祉の顔の見える関係をつくり、行政や関係団体の既存の取組を洗い出し、連携することでより効果が高まるものを探り、発展を目指す。
- 4 市民に対する効果的な情報発信ツールを検討する。

## 他団体へのアドバイス ～ 関係団体との連携の強化

- 1 地域の医療機関や専門職との一体感はとても重要と考える。
- 2 地域包括ケア連携対策など、医師会側等から見えている課題もあることから、医師会・薬剤師会等と日頃から関係性を保ち、情報交換することが大切であると考えている。